

元気のヒント

◁50▷



片山 俊子

徳島大学病院麻酔科
ペインクリニック外来担当

带状疱疹の痛み

ペインは「痛み」、クリニックは「診療所」という意味の英語です。ペインクリニックは痛み全般の治療を行います。代表的な病気に带状疱疹の痛みがあります。

带状疱疹は、体の片側に起きる強い痛みと、帯状の赤み、ブツブツ、水膨れが特徴の病気で、「水疱瘡」のウイルスが原因です。治った後もウイルスは、背骨の近くにある神経細胞が集まった「神経節」と呼ばれる所に隠れています。

加齢、ストレス、疲労などで免疫が弱まると、隠れていたウイルスが活発になり、神経節の神経に沿って皮膚や神経を攻撃しながら増えます。ウイルスが増えすぎて神経や皮膚への攻撃が長引くと、そ

の分ダメージが大きくなります。神経に傷が残ると带状疱疹後神経痛となり、長期間にわたって痛みが消えません。神経の回復が遅い高齢者や、皮膚症状の範囲が広く感覚まひが強い場合は、神経が重度に傷んでいるので痛みが残りやすいといわれています。

带状疱疹の治療のポイント

は、ウイルスが神経に与えるダメージが少ないうちに、つまり、症状が出たら早いうちに治療を始めることです。

治療は主に皮膚科で行います。通常は、抗ウイルス薬の投与で痛みは改善します。しかし、痛みが強い場合や2週間以上強い痛みが続く場合、ペインクリニックで治療します。主に神経ブロックと薬（内服薬や塗り薬）による治療で、外来通院で行います。

神経ブロックは、痛みを起している神経に注射して局所麻酔薬を効かせることで痛みを和らげます。局所麻酔薬

症状出たら早期治療を

の効果は2時間ほどですが、痛みの悪循環(図参照)を断し、傷んだ神経にしっかりと血流を届けることで神経の回復を促します。

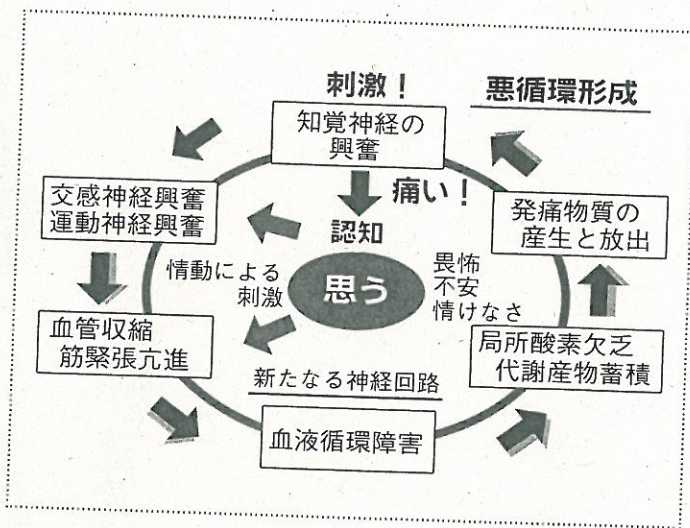
皮膚の出現部位により、三叉神経ブロック、星状神経節ブロック、硬膜外ブロック、肋間神経ブロック、神経根ブロックを使い分けます。神経ブロックは、神経が治ろうとしている時期にするのが効果的であり、带状疱疹発症から1カ月以内が最も有効です。発症後3カ月以上たっても

痛みが続くものを带状疱疹後神経痛と呼び、この時期になると、残念ながら神経ブロックはあまり効果がなくなりま

す。しかし、神経ブロックを

内服薬は、いわゆる痛み止め(消炎鎮痛薬)を使いますが、医療用の麻酔も使用します。また、特別に病院で調合した濃い濃度の局所麻酔薬の塗り薬も使います。他には、抗うつ薬、抗けいれん薬や抗不整脈薬なども使用します。これらの薬は通常の使い方と異なり、痛みの性質を熟知したペインクリニックならではの使い方です。近年、带状疱疹後神経痛に有効な薬剤が発売され、多く使われていますが、急性期の強い痛みにはあまり有効でなく、副作用のふらつきだけが出てしまっている人もいます。内服薬は適切な時期に、適切な薬剤を使用するのが大原則です。

带状疱疹の痛みは適切な治療をしても治らないことがあります。何年も痛みを抱えている患者さんは、誰にも分かってもらえないこのつらさを訴えます。そういう痛みのある人に寄り添っていくのもペインクリニックの大切な役割です。



神経ブロックで緩和